

第４回区政改革懇談会・議事要旨

日時 第４回 平成２０年５月１３日（火）、１９：００～２１：００

会場 サンパール荒川 高砂・羽衣

議事要旨

開会

区側の平成２０年度の事務局体制及び地域総合計画研究所の新スタッフからのあいさつ

１．座長あいさつ

- ・ 平成１７年度から３期にわたって区政改革懇談会を実施しており、初期は世代・職業別、次はテーマ別で議論してきて、区政に反映された提言もあり手ごたえを得ている。
- ・ 今回は、今まで実施していない地域別の議論をしたい。

２．今後の懇談会の進め方について（事務局から）

- ・ 第３回懇談会の議事要旨について、事前に配布し、皆様からご意見がなかったもので、確定してホームページに掲載する。
- ・ 資料「区政改革懇談会の進め方（案）」について。今年度は、地域に根ざした議論を具体的に進めていただくため、地域別グループ討議をお願いしたい。
- ・ 次回以降、各テーマ２回ずつ地域別に議論し、２回目の最後に各地域での議論を簡単に発表していただきたい。
- ・ そのため、原則として同一日開催とするが、回数を増やすなど地域ごとに要望があれば対応する。
- ・ 次回以降は、各テーマに関連する区側の担当者も出席する予定なので、質問があれば事前に寄せてほしい。

○ 委員からの質問

- ・ 議事録は区のホームページのどこに掲載されるのか、分かりにくいので教えてほしい。

○ 事務局からの回答

- ・ 「トップページ→区の行政・財政→トピックス→区政改革懇談会」と進むと、議事録が PDF ファイルで掲載されている。

３．グループ討議

（地域総合計画研究所から資料「テーマごとの意見整理」の説明）

【グループ討議の結果まとめ】別紙参照

４．次回の日程について

○座長によるあいさつ

- ・ 次回は６月１１日（水）に予定している。子育て関連の質問があれば、事前に事務局まで寄せてほしい。
- ・ 地域別グループを組んだので、是非「地域で何ができるか」という議論をしてほしい。

以上

第4回 区政改革懇談会 グループ討議の結果まとめ

平成20年5月13日(火)午後7時～9時 @サンパール荒川 高砂・羽衣

<南千住グループ>

●子育て

【地域の中で見えない子どもたち】

- ・ 外で遊んでいる子どもが少なく、子どものいる家庭が地域の中でどこにいるのか見えない。

【子ども会の意義】

- ・ 子ども会に入ることによって、子どもが社会的に成長する。
- ・ 町会に子ども会があるところと無いところがある。子どもが地域の中で見えないという声もあるが、子ども会があるところは、子どもがいるということだ。この南千住には、子ども会がどこにあるのか知っておく必要がある。
- ・ 都営住宅などの居住者の自治会には、子ども会がきちんとあるようだ。
- ・ 子ども会の組織を拡充することが大事である。しかし、町会が小さい組織だと、子ども会も面倒を見るのが難しくなる。まして他の町会の子ども会の面倒までは見られない。
- ・ 区民が子ども会に無関心であることも問題である。子ども会の存在そのものを知らない区民が多い。
- ・ 子ども会の存在を知っていて、かかわってみたいと思っても、どのように関わられるか、関わり方が分からない人が多いと思う。

【子育て関連の団体】

- ・ 子どもにかかわる団体は、子ども会の他に、消防少年団、交通少年団、ボーイスカウト等がある。行政とそれぞれの団体とのかかわり方は縦割りである。
- ・ 子どもにかかわる団体の情報は、区の「私の便利帳」にでているが、情報としてもっと分かりやすい総合的なものがあるとよい。

【子育て観と年齢】

- ・ 「子ども」とは、何歳までを指しているのかによって、子どもに対する考え方も違ってくる。一般的に、20歳まで、18歳まで、16歳までとある。また、9歳までという説もある。
- ・ 「子育て」といった場合は、9歳までを意識するし、「教育」というと高校生くらいの18歳までとなる。また、「自立するまで」とすれば、もっと年齢は上になる。
- ・ 子どもの年齢によって、子どもに対する子育て観も違ってくる。その認識の違いをどうするかは、子育ての議論をする際には大事なことである。
- ・ 生後3か月で保育園に預けて働く若い親がいるが、果たしてそれがよいのかどうかと思う。昔、子育てをした世代と今の若い世代とでは子育て観が違う。

【子どもの虐待】

- ・ 子どもの虐待はテレビだけでの話ではないかと思えるが、もし、そのような虐待があるのであれば、どうにかしたい。
- ・ 町会の婦人部に「母の会」があるところもある。婦人は頑張って欲しい。

●福祉

【元気な高齢者の支援を】

- ・ 元気な高齢者に対する就労支援も必要である。60 歳位で本来働きたいのにスポーツセンターで汗を流している人が多くいる。
- ・ 子育ての支援だけでなく、高齢者への支援も力を入れて欲しい。

【介護保険】

- ・ 介護保険料が高すぎる。将来、払った保険料分の介護をきちんと受けられるのか不安である。
- ・ 介護認定の基準が厳しいので、老い先が心配である。

【一人暮らしの高齢者】

- ・ 町会に一人暮らしの高齢者がどこに何人くらいいるか分からない。
- ・ 町会長は、一人暮らしの高齢者のデータをもっているようだが、外には出せないようだ。
- ・ 高層マンションに一人暮らしの高齢者が多くいる。警察も含めてどこも把握できてないように思う。健在かどうかの安否確認ができるような何らかの対応や仕組みが必要だと思う。
- ・ 一人暮らしの高齢者の電話相談をしているが、高齢者は不安を一杯抱えていて、世間話を含めて、たくさん話をしてこられる。こうした対応は女性の方が向いているように思う。

●防犯

【防犯につながる町会への参加】

- ・ この地域は、マンション、公団の住宅、借家アパート等色々な住宅があるが、どこの住宅の世帯も町会に気軽に参加すること、参加できるようにすることが大切である。そうすれば防犯にもつながっていく。

【警察と地域の関係】

- ・ 警察と地域との関係が疎遠な地域がある。交通安全講習等を実施している地域と実施していない地域とがある。
- ・ 例えば4丁目、8丁目等では交番が少ないように感じる。

【高層住宅の防犯】

- ・ 高層住宅のエレベーターは密室になり、怖いとすることがある。子どもに対する犯罪などもあった。

【街路灯の整備】

- ・ 1丁目、6丁目は路地が多く、街路灯も少ない。街路灯を多くしてもっと明るくして欲しい。

- ・ 街路灯が整備されている地域と整備されていない地域とがある。きちんと整備して欲しい。

【防犯連絡員】

- ・ 防犯連絡員は人数が限定されていて、十分には機能していない。例えば、「地域安全連絡員」といった区から認定される人が防犯、防災、福祉、交通安全等について、地域の人に総合的にかかわっていけるような柔らかな制度が出来るとよい。

【自転車盗難等の軽犯罪】

- ・ 荒川区は、自転車盗難が多いそうだ。
- ・ 南千住警察でのヒアリングによると、荒川区は大きな犯罪は少ないが、置き引き、引ったくりの類の犯罪が多いそうだ。

●その他

【地域の分断】

- ・ 南千住はJ R常磐線を挟んで古い街と新しい街とに分断されている地域である。

【行政とのかわり】

- ・ 行政について良く知らない区民が増えた。また、区民と行政との接点も少なくなった。
- ・ 荒川区の行政相談員がどのような活動をしているのかが見えない。

<荒川グループ>

●子育て

【「子育て」をテーマに考える切り口】

- ・ 「子育て」を考える切り口として、「だれが育てるか」ということがある。一つは「親や家庭」、二つは「学校」、そして「地域」だ。それぞれ問題点があると思う。
- ・ また、「どう育てるか」という切り口もある。一つは「経済面」として保育や教育の経済的な負担からくる格差をどうするか。また「教育面」では相談窓口の敷居の高さが問題だ。もう一つは「防犯面」という切り口もある。
- ・ 「子育てしやすい荒川区」というテーマを設定し、「保育の強化」に絞って考えたかどうか。
- ・ 保育だけではなく、もっと年齢の高い子ども達の子育てを考えると、「中高生の育成」というテーマもある。これは防犯とも関連する。

【地域のつながり】

- ・ 自分の子どもが育ってしまうと、子どもを媒介にした地域のつながりから離れてしまい、どこにどんな子どもがいるのか分からなくなってしまう。民生委員になって初めて知ったことも多い。
- ・ 同じ年代層同士ではそれなりにつながりがあり、「横の情報」はある。「縦の連携」を地域でどう作るかがカギになる。
- ・ 様々な年代に子どもの居場所や様子を知ってもらうためにはどうしたらいいか。

【「縦の連携」を作る町会の役割と「個人情報保護」】

- ・ 町会には、地域での世代を超えた情報をキャッチする役割があるのではないかな。

- ・ しかし、組織の基本は名簿である。個人情報を出すことに抵抗感のある人が増えてきていて、名簿作成もままならない。
- ・ 「プライバシーの保護」という意識を変えないとコミュニティ力は向上しないのではないか。個人、学校、行政も、個人情報にデリケートになりすぎている。
- ・ 民生委員をもっと地域の情報の要として利用すべき。
- ・ 町会に入っていない人は民生委員がだれなのかも分からない。存在すら知らない人も多い。顔の见えない人にいかに地域に入ってもらうかが問題だ。

【学校での情報管理】

- ・ 学校内でも連絡網が作れず、子ども同士、親同士が気軽に連絡を取り合えず、必要なときに集まらない。

【行政による情報提供】

- ・ 区民と行政には感覚のズレがある。区の情報提供はホームページと区報のみで、これは行政の感覚である。区民からすれば、もっと他の方法も取ってほしい。
- ・ 行政の情報提供は一方的だ。区民に周知するにはどうすべきかを考えてほしい。
- ・ 区の事業はたくさんあるのに区民がその多くを知らない。区のPRの問題ではないか。

【区の事業の評価を】

- ・ 区の事業の成果やどれだけのお金が区民に使われたかを評価して、次の事業に生かすべき。

●防犯

【中高生の育成】

- ・ 防犯というと被害を防ぐことに意識が行きがちだが、子どもたちを加害者にさせない、ということも課題だ。子どものグループ間のトラブルや万引きなどを防ぐ必要がある。
- ・ それらの背景には親の無関心があると思う。

●福祉

【警察や行政の配慮】

- ・ 一人暮らしのお年寄りの自宅に、消防署への連絡ブザーを取り付けるようお願いしたが、「まだ一人で生活できるので必要ない」という理由でつけてくれなかった。何かあってからでは遅いという意識を持ってほしい。
- ・ 小学生が側溝に物を落として困っているところに警察官が通りかかったのに、素通りしたのを見た。警察官はもっと地域の小さなことにも気を配ってほしい。

●グループ討議の進め方

【論点】

- ・ 各テーマ2回ずつでは、実のある提言ができないのではないか。今日は論点を探す議論をするといい。
- ・ 今既に行われているいろいろなシステムは時間を掛けて作られたものであるもので、それに対してこの時間内に提言をするのは難しい。どんなに小さなことでもいいから何か一つ実のある提言をすることを目標にする。
- ・ 同じ荒川地域と言えども、その中でも地域特性が様々ある。共通の話題を見つける必要がある。

【懇談会の提言の周知】

- ・ 前回の懇談会の提言集をどれだけの区民が知っているのか疑問だ。多くの区民に懇談会や提言を知ってもらうにはどうしたらいいか。

【実態把握】

- ・ 区の事業の概要やテーマに関する統計など、実態把握から始めたい。
- ・ 次回までに、子育てのテーマについて、区の各事業や施設の（１）PR方法、（２）利用実績、（３）課題の概要をまとめた資料を提供してもらい、現在ある事業等をどう生かすかを考えたい。
- ・ 子育てに関する事業について担当者から概要を聞きたい。
- ・ 例えば、「ママのメンタル相談」にはどんな相談がこれまで寄せられているか。
- ・ 「おたっしやランチ」事業はその取組自体はいいが、どのようにコミュニティ力向上につなげるかの計画がないのではないかな。
- ・ 次回は、それらの実態の概要を聞いた上で議論の論点を探すことにする。

<町屋グループ>

●子育て

【公園の利用状況】

- ・ 公園が増えたが、子どもには利用されていない。
- ・ 公園が活用されていない。下校してから公園で遊ぶのは物騒だという考えがある。
- ・ 小さな子どもも遊んでいない。

【公園・校庭の世代交流の場】

- ・ 網で囲った公園であれば、野球やキャッチボールもできる。他区では色々な世代が利用し、世代交流の場ともなっているのに、荒川区でもこのような公園があるとよい。
- ・ 中高生やスポーツ好きの住民に公園を管理してもらうことが大切だ。
- ・ 校庭開放は余り有効に使われていない。キャッチボール禁止など禁止事項が多い。

【子育てのサポート】

- ・ 孫の子育てなら手伝えれると思うが、きっかけがつかめない。

●福祉

【一人暮らしの高齢者の所在】

- ・ 一人暮らしの高齢者は町会に参加していないので把握しづらい。
- ・ 阪神淡路大震災後に一人暮らしの高齢者の名簿を作成しようとしたが、町内の1/2の世帯しか協力してくれなかった。
- ・ 高齢者は表札を出していないので、居場所がつかみづらい。

【一人暮らしの高齢者・障がい者へのサポート】

- ・ 近隣の一人暮らしの高齢者へのサポートをどうするか。
- ・ 一人暮らしの高齢者に対し、声掛けのきっかけがつかめないが、ボランティアとして活動していきたい。
- ・ 声掛けのボランティアがあると良い。

- ・ 高齢者は戸締りが無用心なことも多いので、気に掛けておくことは大切だと思う。また、いざ病気になった時の対応のため、緊急連絡先を把握しておくことも必要だと感じている。高齢者は話し相手が欲しいものなので、普段の話し相手からこれらのことを把握することが出来ると思う。
- ・ 商店街で高齢者や障がい者向けの宅配サービスのようなサポートがあるとよい。
- ・ 高齢者や障がい者へのサポートは、もう一步踏み込んだものが必要だ。その人が訴えている本質を汲み取らないとうまくいかない。足の悪い人に対して、その人が普通だった喫茶店に連れて行ってあげるようなサポートなどがあると良い。

●防犯

【小学生の被害の防止】

- ・ 小学生に対する事件が一時期増えた。
- ・ 学童クラブから帰宅する児童を高齢者が自宅まで送迎するサポートを実施している。

【公園にたむろする若者達】

- ・ 公園等でたむろしている子どもたちは、話をしていると悪い子ではないと感じる。
- ・ 夜中に公園で若い人が騒いでいる。朝になるとゴミが公園に散らかっている。

【街中の治安】

- ・ パトロールがあり、街中は安全だと感じている。
- ・ 繁華街では夜に呼び込みがあるので、防犯的に不安がある。

●町会活動

【コミュニティが密な地域性】

- ・ 荒川区は、以前住んでいた世田谷区と比較しコミュニティが密であり、住みやすい。
- ・ 良い意味でおせっかいな人が多く、今後ともそうあって欲しい。

【情報の共有】

- ・ 地域情報の共有が必要である。町会の掲示板をもっと活用した方がよい。

【町会への参加】

- ・ お祭りに参加するために町会に入ったが、活動がトップダウンであり参加が難しい面があった。
- ・ 自分の住んでいるマンションでは、町会に入っている世帯は 1/3 くらいだった。
- ・ ワンルームマンション入居者は町会とあまりかかわりがない。
- ・ 組合がしっかりしていないマンションが増え、コミュニティが成り立たなくなっている。

【町会活動の透明化・活性化】

- ・ 町会の動きが見えない。町会費を徴収しているが、会計報告がない。
- ・ 賃貸マンションに住んでいるが、町会活動が見えない。
- ・ 町会はマンネリ化している。幹部は 80 歳前後で高齢化しており、若い世代が町会に対する提案を行っても、受け入れる余地がないと感じる。
- ・ 町会は様々な事業を行っているが、それらが評価されないのはやり方がまずいと感じる。
- ・ 年に 1 回でも皆が集まれるような町会活動が必要で、誘い合うことが重要だと思う。

- ・ 区外から来た人と昔からの居住者の間の交流が必要である。
- ・ 郷土愛のようなものをはぐくまないと町会活動はうまくいかない。どう育てていくかが課題だ。
- ・ 隅田川の堤防の壁面に絵を描くイベントを町会で実施したらどうか。絵が連続すればプロムナードになる。ペンキ代は行政で持って欲しい。
- ・ 町会に入る前に、イベントに参加して町会活動を体験してみてもどうか。また、このようなコミュニケーションの場づくりは町会だけの力では難しいので、行政にも協力をお願いしたい。

●その他のテーマ

【商店会】

- ・ チェーン店が増えて、町会に協力してもらえず連携が取りにくくなった。
- ・ 商店街は後継者不足だ。
- ・ 商店街は駅の近く以外はシャッター通りとなっており、寂れていってしまう。

【防災】

- ・ 阪神淡路大震災では自転車も使えないので、足元の保護のために靴が必要である。人を守る前に自分を守ることが重要である。
- ・ 町会にリヤカーや車椅子が行政から配布されたが、倉庫に鍵が掛かっており、いざというときに使えるかが疑問だ。
- ・ 避難路などの整備は、地域からの声が大切である。また、情報提供も防災には重要である。
- ・ 災害時は尾久の原に逃げればよいのか。避難マニュアルはあるのか。

【公園の管理】

- ・ 公園の花はきれいに手入れされている。
- ・ 公園には「●●が管理しています」と看板が出ているが、公園に雑草が目立つ。ボランティアで草花の手入れがしたいと思っている。

<尾久グループ>

●子育て

【保育施設】

- ・ 尾久地域には保育施設が不足しており、待機児童が多い。他の地区で空いているといっても、遠くて利用が難しい。
- ・ 孫が尾久地区の保育所に入所できないため、息子夫婦は、足立区に引っ越してしまった。このようなケースが尾久では多い。
- ・ 保育所、幼稚園の施設水準が低いため、ここで育ち、本来はここに永住するはずのファミリー層が流出してしまっている。

【育児支援】

- ・ 尾久地区はマンションが増え、子どものいる世帯が増えている。
- ・ マンションに限らず、尾久地区は基本的には共働き家庭が多いので、それを地域でいかにサポートするかが重要である。
- ・ 尾久地区の中心である東尾久3丁目周辺は、子育てや子どもの教育施設がない。

- ・ 薬局を経営しているが、よく若い母親から子育て相談を受ける。若い母親たちのニーズは高いが、子育ての適切な情報を提供する場がない。若い母親たちにとっては深刻なようである。
- ・ 地域で子育てや幼児教育の相談をする場所を作る必要がある。

【学校と地域の交流】

- ・ 小・中学校が、学校自由選択制になり、幼稚園で一緒に遊んでいた子でも、学校が違っていると一緒に遊ばなくなる。
- ・ 学校自由選択制で親のつながりも弱くなった。
- ・ 学校自由選択制で学校は地域との結びつきが一層弱くなっている。
- ・ 学校・PTA・地域と連携を取る必要があるが、学校自由選択制の状況では一層難しくなった。
- ・ 人気のある学校と人気のない学校があり、子どもたちに微妙に影を落としている。
- ・ スポーツなどが強い人気のある学校は、足立区などから越境入学がある。
- ・ 小学校ぐらいは昔の通学区方式でよいと思う。
- ・ 学校のスポーツや文化のクラブ活動などと地域が結びつくことを考えたい。
- ・ 先生と地域が交流することができれば、いろいろなことが可能だと思う。

【子どもの集う場】

- ・ 子どもたちが外で遊ばないため、体力低下や他人と接する機会が少なくなっている。
- ・ 尾久地区には中・高校生の学習する場がない。
- ・ 地域には元学校の先生など指導者が多いが、その人たちの活動する場がない。
- ・ 地域で空いた施設などを利用して、子どもが集う場ができないか。

【先生の子どもに対する姿勢】

- ・ 先生が生徒の機嫌をとるような態度は子どもを助長させるのではないか。

●福祉

【地域医療と福祉】

- ・ 尾久地域には、首都大学東京、東京女子医大と、保健・医療施設が立地している。そのスタッフを活用して、地域との連携を考える。

●防犯

【防犯パトロールなどの改善】

- ・ マンションなどに空き巣が増えている。しかも、2階や3階などの上の階で被害が増えている。
- ・ 交番もあるが、奥に入った所で分かりにくく、犯罪の抑制効果も薄い。また、いつも交番には人がいない。いざというとき役に立たない。
- ・ 交番のお巡りさんがもっと意識的に巡回をして欲しい。交番と地域とのつながりが薄くなっている。
- ・ 町会を中心に行われている防犯パトロールは高齢者が多い。
- ・ 防犯パトロールは、町会だけでなく、何か改善策を考える必要がある。

【交通安全】

- ・ 放置自転車などが路上にはみ出しているため、幼児を連れた若い母親や高齢者たちが、歩道から車道に出て歩いていて大変危険である。

- ・ 警察は、自転車に対しては指導をせず見ているだけである。
- ・ 放置自転車対策を行う所がない。

【地元警察と地域との関係の強化】

- ・ 尾久警察は以前のように、地元との交流や連携をもっと強めるべきである。

●コミュニティ全般

【マンション居住者と地域のつながり】

- ・ マンションの自治組織は地域との協力関係が弱い。
- ・ マンションの自治組織は、防犯灯などの負担を嫌がるなど、地域に対しては協力的ではない。
- ・ 条例ができたがマンションの自治組織との関係は何も変わっていない。区は条例を作って終わりではなく、周知徹底し、普及するような手立てを考え実践して欲しい。

【町会との世代交代と活性化】

- ・ 町会は、以前は世代交代が自然にできたが、今は世代交代がうまくいっていない。地元出身の若い人でも、参加する意欲が湧かず、加入していない人も出てきている。
- ・ 昔は、地域の自営業者を中心に若い世代の組織があり、町会との連携、世代交代が行われたが、今はつながりがなくなっている。
- ・ 地元の祭りの組織と町会とのつながりも薄くなっている。
- ・ 町会に、情報発信や新たな課題に対応することを求めることは難しいのではないか。

【地域資源を生かした地域の活性化】

- ・ 商店街も地元の人間が少なくなることで機能不全を起こし、今までのシステムが崩壊し始めている。
- ・ 町会に頼るのではなく、商店街の空き空間などを活用して、子どもや大人が集まる場と組織を考えていくことが必要である。
- ・ 尾久地域には首都大学東京（保健医療分野）や東京女子医大など、豊富な地域資源がある。ここのスタッフや学生と交流を深め、子育てや医療相談、介護などの高齢福祉、外国人との交流や相談などの活動がイメージできる。
- ・ 活動拠点となる場づくりができれば、今後地域貢献型の多様な活動が区民の手でできるのではないか。
- ・ 地域資源を生かして地域の活性化を考えていくのがよい。

<日暮里グループ>

●子育て

【子育ての対象】

- ・ 子育ての定義が良く分からない。子育ては女性が中心で、男性からは分かりにくい。
- ・ 地域で子育てを考えると対象は、幼稚園児を中心に考えれば良いのではないか。親子ともに地域で見守ることが必要だ。

【子どもが集うきっかけ】

- ・ 地域の子どもを集めて集団で遊ぶイベントを開催している。ボランティアが中心となり、広く声をかけながら進めている。たくさんの子どもたちが集まり、よい活動なので今後も続けたい。(6月天王祭、5月元三島、8月諏訪神社のお祭り、9月子どもオリンピック・町会バスハイク、7・8月納涼祭り)
- ・ 子どもに絵本を配る事業があるが、ただ配るだけでなく、何らかのイベントと組み合わせ子どもが集う機会として活用できないか。

【地域で子育て】

- ・ 日常生活の中での最低限のマナーやしつけなど、五感を通した子育てを培う場がない。
- ・ 荒川区には、まだコミュニティが残っていて、地域で子育てができる可能性が残されている。
- ・ 行政では、たくさんの子育て事業が展開されているが、それでも補えない部分を昔ながらの子育てで支えられたらよいと思う。
- ・ 町会での子育て支援を進めているが、役員が高齢のため問題点を見出せないでいる。また、支援が必要な親御さんは、若くて町内会活動に参加していない人たちも多い。そのため、知り合うきっかけがないことも問題である。
- ・ 親育てが重要な問題である。若いマンション世帯の親御さんとどう関わるか。昔から地域に住んでいる住民は高齢化し、若い世代との接点を持ちづらい。
- ・ 通学路の治安を守り、子どもの安全を守ることが大切である。関連する区の事業（パトロール等）について評価することも必要である。
- ・ コミュニティが機能していないので地域での子育てが難しくなっている。たとえば、子どもに近づくと『知らないおじさん』『怪しい人』扱いされて不用意に近づけない。

【子育て施設】

- ・ 日暮里地域に子育て交流サロンが少なすぎる。地域が横長に広く、地形も起伏があるため離れた施設に行きにくい。
- ・ ふれあい館、ひろば館の位置が地域ごとに偏りがあり、使いにくい。
- ・ 日暮里駅前に遊び場や交流の場がない。民間マンションのコミュニティルームを地域の子どもたちに開放してもらえるといい。

【地域の中の学校の役割】

- ・ 学校は地域をつなぐ場として重要である。日暮里地区では、それぞれ地域性があり、小学校ごとのお祭りの特徴が違う。
- ・ 学校自由選択制になってから地域とのつながりが薄れてしまった。
- ・ 合宿通学について、学校により参加人数が異なっているようである。合宿場所の問題ではないか。

【子育てに関する情報】

- ・ 行政が進めている子育てに関する事業はたくさんあるのに、情報が伝わっていない。
- ・ 区報や区の事業などの情報提供が不足している。もっと区報を活用すべきである。
- ・ 特に専業主婦の方に情報が伝わりにくい。

●福祉

【一人暮らしの高齢者】

- ・ 一人暮らしの高齢者宅の把握と地域情報の伝え方が問題になっている。

●防犯

【となり組単位での活動推進】

- ・ 防犯活動には隣近所の活動と行政指導の活動が特に大切だと思う。町会単位では大きすぎる。各家庭に近い、となり組での話し合いを推進すべきである。
- ・ 日常生活の中で災害が発生した場合のシミュレーションをするべきである。平日の昼間に、みんなが家にいるとは限らない。

●コミュニティ全般

【荒川区のコミュニティ】

- ・ 荒川区にはまだ地域コミュニティが残っているが、今後『コミュニティの協働』の条件をどう作るか、目的意識をどうつくるかが問題である。

【町会の透明化・活性化を】

- ・ 町会活動と行政のかかわりを見直すべきである。
- ・ 町会は、メンバーが固定化・高齢化してしまっている。今後、どう新陳代謝を促すかが課題である。もっと組織の透明性を高めることも大事ではないかと思う。
- ・ 町会に気軽に入れるきっかけや接点、情報がない。
- ・ 行政からの情報伝達は町会が担っているが、今後はこれだけではやっていけない。もっと透明性をもった情報提供が望まれる。

【地域住民が集える場】

- ・ 地域住民が集まるイベントを企画し、コミュニケーションを図ることが必要である。祭礼は意外に少ない。

【地域住民間の情報共有】

- ・ 町会未加入世帯への地域情報の発信が難しい。
- ・ 個人情報保護が厳しくなり、町会で名簿が使えなくなって、活動の幅が制限されてきている。
- ・ インターネットやテレビ、雑誌などで悪質情報が素通り・野放しになっており、情報に関して不信感が募っている。そのため住民の情報共有が進まなくなっている。
- ・ 町会にだれが所属しているかを知らなかったり、町会に友達や知り合いがほとんどいない。そのため、地域にいても外の人か中の人か区別がつかない。

●その他のテーマ

【災害時に備えた行政の役割】

- ・ 災害時のことが今大きなテーマとなっている。道路空間の確保や避難、及び、万が一の場合の指導をどうするか考えたい。
- ・ 災害時の避難について、町会との連携強化が重要だが、一般の住民への具体的指導と定期的な対話指導を行政がすべきである。これがコミュニティの強化につながる。
- ・ 地域の実態を踏まえたきめ細かい災害時対策マニュアルが必要である。
- ・ 行政が治安環境づくりにおいてリーダーシップをとることが大事である。